

2026年4月26日放送・第550回グラウンドワーク三島アクショントーク

渡辺豊博氏の新刊『ジャンボメッセージ』の紹介：AI機能とNPO運営30年の知見

新刊紹介 NPO運営30年

『ジャンボメッセージ』：AI機能とNPO実践の30年

単なる読書を超えた「会話する本」— 1,000万字超の知見が引き出す人生と組織の処方箋

AI学習データ量

1,000万字超

30年間の著作、講演録、論文を学習。著者の思考を多層的に再現し、あらゆる問いに回答する「知の結集」。

読者と対話する「革新的な読書体験」

何でも相談できるAI機能

NPO運営の専門知識から、恋愛相談、老後の過ごし方まで、渡辺氏の経験に基づき深掘り可能。

- ✓ 237ページ、約20万字のボリューム
- ✓ 三島・富士山・海外の活動実績を網羅
- ✓ Amazonおよび事務所にて販売中

52のメッセージ

実践から導き出された戦略・ノウハウを「テレテクダ」として体系化して収録。

NPO運営の哲学：「平行移動の生き方」

「まず生活の糧と基盤を確保しよう」

社会的責任の完遂

県庁職員としての職責を果たし、家族の生活基盤を守ることで、持続可能な活動を可能にする。

公私・仕事のバランス

「役人」と「NPO専務」の二つの基盤を併走させる独自のライフスタイルを提唱。

人脈と信用の戦略的活用

SCHOOL NETWORK

学校人脈の最大活用

沼津東高校・慶應義塾大学の縁を公益的な活動へつなげる。

PATRONAGE

多方面からの支援

企業、行政、政治家から応援を引き出す「人の心を掴む方法」。

「コンピューター付きブルドーザー」

大岡信氏が評した、緻密な知略と圧倒的な実行力の両立。

危機克服のリアル：信用とプレゼンカ

実話録

資金難：通帳残高23円

23 感情に頼らず、緻密な計画書と再生案で支援を獲得。

組織的危機：乗っ取り未遂

尾脇実理事長との強固な信頼関係が組織の透明性を守り抜いた。

プレゼンの極意

「おばあさんの心を掴まなければダメになる」という緊張感。アクションプランこそが信用の源泉。



渡辺 豊博 (ジャンボ)

NPO法人グラウンドワーク三島 専務理事

活動拠点

三島市 (源兵衛川など)

再生実績

75カ所

ネットワーク

数万人規模

「大きな夢がなければ、苦労は乗り越えられない」

購入・活用方法

2,750円 税込価格

Amazon / 事務所にて販売

※事務所ではサイン対応も可能

今後のアクションアイテム

全国紙へのPR・周知拡大

ゼミ生500名への順次連絡

番組への意見・感想の受付

「一軒に5冊」の普及活動

概要

ラジオ番組「グランドワーク三島アクショントーク」第 550 回（4 月 26 日・日曜日開始）にて、NPO 法人グランドワーク三島専務理事の渡辺豊博氏（ジャンボさん）と岡本真由美氏が、新刊『ジャンボメッセージ』を取り上げた。

渡辺氏は、本書が単に読み切るための本ではなく、自身の 30 年間の活動、著作、講演録など 1000 万字超の情報を学習した「対話型 AI 機能」を備え、「会話する本」として、読者が問いかけながら知識を深掘りできる構造であることを強調。

発売は 4 月 17 日、4 月 22 日には静岡新聞の全県版に掲載され、反響により Amazon での販売が動き出し、渡辺氏への問い合わせも増加。現時点で「全体で 100 冊近く売れた」との実感が示された。PR はまだ本格化しておらず、これから全国紙を含む各社への周知を進める予定と述べた。

新刊『ジャンボメッセージ』の概要と AI 機能の特長

『ジャンボメッセージ』は、三島を中心に「水の都・三島を湧水網都市にしよう」という目標のもと、源兵衛川から始めて「今 75 カ所、汚かった場所を綺麗にしてきた」実践経験を核に編まれた。

渡辺氏は、これまでに、22 冊の単著や雑誌・論文掲載を重ねてきたとしつつ、約 250 ページ・20 万字規模の本が 12 冊存在し、さらに「過去の著作 10 冊を掛け算すると 400 万字」と言及。

今回の新刊は、237 ページ、17 万字から 20 万字のボリュームを持つ。講演録の音声内容なども含め、AI には「字数にして 1000 万字から 1500 万字」の情報が入力されているという説明に加え、「1000 万字から 1200 万字の情報が入っているのはすごい」という所感も述べられた。

本書は、三島・富士山・イギリス・韓国・台湾などに関する話題から、初恋の記憶まで幅広いデータを収録。初恋の相手は、小学校の同級生で、京都女子大に進学し、京都の高校教員となった人物だと具体的に語られた。

AI への問いかけにより、渡辺氏の頭の中に蓄積された多層的な経験・知識が引き出され、NPO 運営論のみならず、恋愛相談、子どもの悩み、老後や定年後の過ごし方など、人生相談領域まで「何でも OK」で深掘りできる点を特色として提示。

回答が一気に提示される「知の結集」に没入する読書体験を推奨し、事務所および Amazon で購入できることを案内した。ユーモアを交えて「家に 1 冊、各部屋に 1 冊、トイレ、玄関、仏壇の前にも 1 冊」置くことを勧め、「1 軒で 5 冊は最低必要」と語った。

価格は「2750円」とし、13年間で教えたゼミ生「200人近く」や自身の「何万人ものネットワーク」への連絡を順次進める予定も述べられた。

本書に凝縮された NPO 運営の哲学と実践的ノウハウ

『ジャンボメッセージ』の中心には、NPOの立ち上げから運営・新しい挑戦・「三島磨き」のプロセスに至る戦略・ノウハウ・「テレンテクダ」が「52のメッセージ」として整理されている。具体的には、以下のような実務的知恵が列挙される。

- 生活基盤の確保を最優先すること（メッセージ「まず生活の糧と基盤を確保しよう」）。NPOは楽しく格好よく見えるが、家族を犠牲にしてまで自分のやりたいことだけを貫くのは誤りであり、県庁職員としての出世、給与・退職金の確保を通し、家族に対する社会的責任を果たすことが大前提だとする。
- 渡辺氏自身、家族旅行（ディズニーランド）や子の入学式・卒業式に行けないこともあったが、大学・大学院を卒業させるという親の責任をまっとうしたうえで活動を続けた。「NPO活動をやりながら県庁の役人もやる」ことを「並行移動の生き方」と呼び、二つの基盤の併走を説く。
- 人脈の戦略的活用（メッセージ3「地方こそ学校人脈を活かせ」）。一人ではできない場面で誰に助けを求めるかが重要となる。沼津東高校のネットワークから文化勲章受章者・大岡信氏との縁につながり、氏は渡辺氏を「コンピューター付きブルドーザー」と評した。信用を獲得するためには、公益性・社会性の高い、誰もやっていない活動であることが求められる。
- パトロン・支援獲得と関係構築。企業支援の受け方、行政（三島市・県・国）への理解の得方、政治家（市長、市会議員、県会、国会議員）からの応援の引き出し方を具体的に記載。人の魂を掴む方法、嫌な人とも仲良く付き合う術、お金を稼ぐ方法、パトロンの見つけ方まで実務的指針が網羅される。
- 階段を一段ずつ登るように組織を形作るプロセス。現場に立つことを「階段を登ること」に喩え、向こうに「素敵な山」が見えてくるといふビジョンを提示。「大きな夢」がなければ苦労は乗り越えられないと繰り返し示される。

以上の内容は、これからNPOを目指す人々にとって具体的で有用な指針になると番組内でも評価された。

支援者との関係構築と組織的危機の克服事例

人間関係の構築は **NPO** 運営の生命線であり、渡辺氏は多くの具体的エピソードを語った。

- 学校人脈からの支援：沼津東高校ネットワークにより先輩の大岡信氏と知り合い、近所付き合いもあって「やっこ寿司」でよく飲み交わした。「コンピューター付きプルトーザー」と呼ばれた逸話が象徴するように、強い実行力への信頼が関係を支えた。
- 緒明實氏（慶應義塾大学出身）とのパートナーシップ：渡辺氏の息子も慶應で縁がつながり、**23** 年間にわたり渡辺氏の団体の理事長を務めた。緒明氏は「現場現場の視点で小さくなるな。視点を富士山に向けて」と助言。
- これは、三島の枠にとどまらず、企業や子ども・女性・高齢者・障害者など多様なステークホルダーから応援されるアプローチ、すなわち公益性の追求へと拡張する考え方であり、「パートナーシップ」という概念に通じる。
- 資金難の局面：「事務局から通帳に **23** 円しかない」と突然告げられた際、緒明氏が的確に支援。どの程度の支援かは本書に詳述。
- 渡辺氏は、情緒的な懇願では信用は得られず、社会は企画書・提案書、アクションプラン、再生計画を求めてくるとし、プレゼンテーションを極意中の極意と位置づけた。
- 「おばあさんの心を掴めなかったらダメになる」との緊張感のなか、配偶者を口説く時などは、集中力で臨んだと振り返る。**NPO** 活動には公明正大一辺倒ではなく「バランス力」が必要とも述べた。
- 組織的危機（乗っ取り未遂）：グラウンドワーク三島の理事に向い入れた人物らとの間で、理事会における「**3**分の**2**以上の理事が罷免に賛成すれば辞任」という **NPO** 法規定が発動されかけた。
- 緒明氏は「ジャンボさんの夢は、三島の夢・未来だ」と擁護し、「組織の透明性は、理事長である自分が監視している」と明言。「美味しくなったから乗っ取ろうとは何事だ。もしそうなら自分とジャンボさんの **2** 人で辞めてグラウンドワーク三島のパート **2** を作る」と宣言。
- これにより、乗っ取りを企図した理事は「我々がそこまで三島を変えていく自信はありません」と述べて辞任した。こうしたドラマや物語が本書には多く収められている。

これらの事例は、理念だけではなく、信用と人脈、的確なプレゼン力、そして強固な支援者との関係が、**NPO** の存続と成長を支えることを具体的に示している。

本書の活用法と読者へのメッセージ

『ジャンボメッセージ』は「会話をする本」であり、AI機能により読者の質問を起点に、渡辺氏が30年間さまざまな角度で語り、蓄積してきた情報から回答が引き出される。

NPO運営に限らず、恋愛問題、子どもの悩み、老後や定年退職後の過ごし方まで、領域横断的な相談に対応。「知的すぎる」「面白い」と自己評価しつつ、没入の読書体験を通じて、まとまった知恵の奔流から「だーっと」答えが出てくる実感を伝えた。

購入は、グラウンドワーク三島の事務所（サイン対応可）およびAmazonで可能。番組では「皆さん、是非とも、購入、よろしく願いいたします」と呼びかけ、メール・ファックスでの意見・要望の投稿も歓迎された。